

**「建築技術」短期連載 第②回**  
**機械式定着工法による接合部配筋詳細設計**  
**最下階柱・基礎梁接合部**

従来、最下階柱・基礎梁接合部では、特に基礎梁下端筋定着の選定方法が不明確である。基礎形式は基礎の支持条件と杭種別によって細分化され、基礎梁主筋定着部の配筋詳細は、基礎形式などに左右されるので一律に定められない。RC 造配筋指針によると、基礎梁下端筋定着部は、地震時引抜き力が生じ、地反力による下方からの圧縮力が作用せず、最上階 L 形接合部内の梁上端筋と同様の応力状態であれば、折曲げ終点からの余長を  $L_2$  以上の直線定着とし、それ以外の場合、投影定着長さを  $L_a$  以上、総長さを  $L_2$  以上としている。 $L_2$  は JASS5 の直線定着長さ、 $L_a$  は大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さを示す。

本稿では、SABTEC 指針 14.2 節の基礎配筋詳細例を基に、①場所打ち杭基礎、②既製杭基礎、③直接基礎における基礎梁主筋定着部の配筋詳細について記述している。

(注記)

本稿は、「建築技術」短期連載 第 2 回の原稿(2015 年 5 月号)であり、(株)建築技術のご了解を頂き、当機構 HP の WEB 講座に掲載したものです。